

畑作用殺菌剤 てんさい・たまねぎの病害防除に



デビューTM 乳剤



4つの“力”で 病害と戦う!

「浸達力」「治療力」「残効力」「予防力」の4つの力で、
優れた病害防除効果を発揮します。

北海道畑作の病害防除に

デビュー乳剤は、てんさいの褐斑病、葉腐病で既に使用されております。

デビュー乳剤がこの度たまねぎの灰色かび病、小菌核病にも
新規適用拡大になり、更に使いやすくなりました。



®TM: ダウ・アグロサイエンス・エル・エル・シー商標

■適用病害と使用方法 (抜粋、小麦・大豆にも登録があります)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンブコナゾールを含む農薬の総使用回数
てんさい	褐斑病・葉腐病	800~1,000倍	100~200ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
	褐斑病	200倍	25ℓ/10a				
たまねぎ	灰色かび病 小菌核病	800倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

■病害と戦うデビュー乳剤4つの“力”

デビュー有効成分は、糸状菌の細胞膜の重要物質エルゴステロールの生合成を阻害する作用を有します (EBI剤、または、DMI剤に分類)。
 てんさい・たまねぎの病害防除には次の4つの力が合わさり、優れた防除効果が発揮されます。



浸達力

浸達力とは、有効成分が茎葉の内部まで入っていく力です。デビューの有効成分は、速やかに植物組織内に浸透するので、耐雨性に優れ、また、植物体内に既に侵入した病原菌(初期感染時)にも効力を発揮します。



残効力

残効力とは、散布された有効成分が長い期間にわたって病害防除効果を発揮する力です。デビューの有効成分は、植物体内に浸透し、長期間病原菌の侵入を抑制しますので、余裕を持った散布計画が立てられます。



治療力

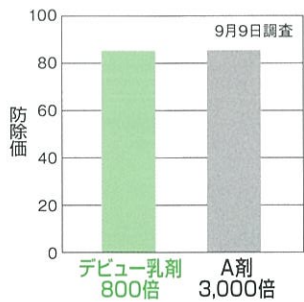
治療力とは、作物が病気に既に感染してしまった後でも、植物体内に入り込んだ病原菌を死滅させたり、活動を停止させてしまう力です。治療力があると、適期散布できる期間が広がり、散布タイミングに余裕が持てます。



予防力

予防力とは、作物を病害の感染から守る力です。てんさい褐斑病などでは、一度、病気が発生すると、病斑上に胞子ができ、次から次に感染が繰り返されますので、優れた予防力を持った薬剤の選択が重要です。

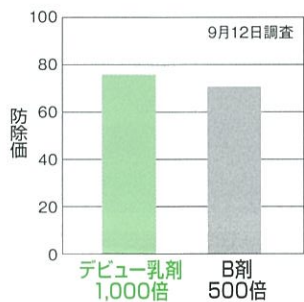
てんさい



褐斑病 / 防除効果試験

(2005年 北海道植物防疫協会)

- 試験場所 / 北海道網走郡
- 供試品種 / アセンド(移植:5月20日)
- 病害発生 / 接種7月15日
多発生(無処理区発病度68.9)
- 初発 / 8月5日
- 薬剤処理 / 8月12日、8月26日 2回散布
- 調査日 / 8月11日、8月17日、8月24日、9月2日、9月9日

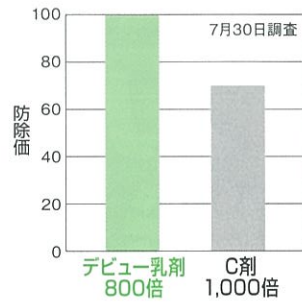


葉腐病 / 防除効果試験

(2007年 北海道植物防疫協会)

- 試験場所 / 北海道網走郡
- 供試品種 / アセンド(移植:5月11日)
- 病害発生 / 接種7月17日および8月8日
少発生(無処理区発病度15.6)
- 初発 / 8月7日
- 薬剤処理 / 8月10日、8月28日 2回散布
- 調査日 / 9月4日、9月12日

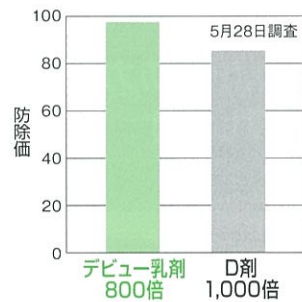
たまねぎ



小菌核病 / 防除効果試験

(2009年 北海道植物防疫協会)

- 試験場所 / 北海道富良野市
- 供試品種 / 北もみじ2000(定植:5月1日)
- 病害発生 / 甚発生
- 初発 / 7月1日
- 薬剤処理 / 6月26日、7月3日、7月11日、7月17日、7月23日 5回散布
- 調査日 / 7月30日



灰色かび病 / 防除効果試験

(2009年 日本植物防疫協会研究所)

- 試験場所 / 千葉県山武市
- 供試品種 / O・P黄(定植:11月20日)
- 病害発生 / 多発生
- 初発 / 5月中旬
- 薬剤処理 / 4月15日、4月22日、4月30日、5月12日、5月20日 5回散布
- 調査日 / 5月28日

⚠ 使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川などに流さないでください。また、空容器などは環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所など関係機関の指導を受けてください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので、火気に十分注意してください。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲などの無いよう注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の処置を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の処置を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の処置を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布液調製時及び散布の際には、保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。



●使用前には、ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

◎本資料は2015年10月現在の知見に基づき作成されています。